

カトリック八尾教会ニュース



“主は復活された、アレルヤ!アレルヤ!”

2024年4月

【今月の予定】

ミサの時間

Tháng tư

*3/31 (日・祭) 復活の主日

7:00

10:00

幼児洗礼式、初聖体式

7日 (日) 復活節第2主日

7:00

↳ (神のいつくしみの主日)

10:00

14日 (日) 復活節第3主日

7:00

10:00

病者のための祈りの集い

21日 (日) 復活節第4主日

7:00

↳ 世界召命祈願の日

10:00

小教区評議会(ミサ後)

ベトナム語のミサ

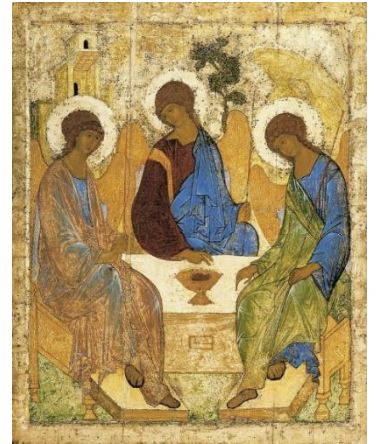
15:00

28日 (日) 復活節第5主日

7:00

10:00

子どもとともにささげるミサ



平日のミサ

[木曜日]

10:00

4日、18日

(11日、25日はお休み)

四旬節黙想会に参加して

(2月25日(日) 9時~)

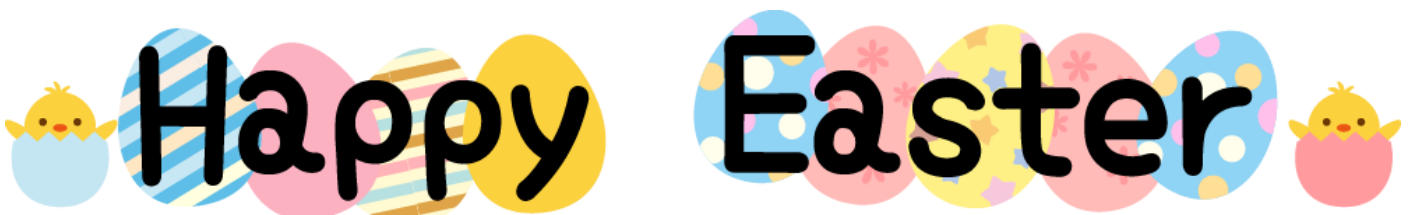
黙想会は、次の三つの事柄を聞いてどのように考えるかという質問から始まりました。

1. イエス・キリスト、 2. キリスト教、 3. 罪、 なかなか難しい質問です。

また、上田神父様は、“食卓”について語られました。準備する人や一緒に食べる人と、思いを共有することが大切だと。「三位一体」を表している絵は、父と子と聖霊が食卓を囲み語り合い、思いを共有しています。イエスは食卓を準備し、罪人である私たちを招いておられます。イエスの記念としての食卓のミサです。私たちがそこで神の思いを共有し、お互いを大切に、つながる時、食卓は生きる力となります。罪が赦され、縛るものから解放されます。キリスト教は、喜びの食卓の宗教、赦しの宗教、愛の宗教です。神父様の力強い言葉が心に響きました。この三つの事柄を、イエスの食卓であるミサの中で、聖書の中で、日々の生活で出会う人や出来事の中で、問い続けたいと思います。

「・・・神の小羊の食卓に招かれた人は幸い」

(信徒 M.O.)



もう 20年も前のことだ。修道会に入って修練所で2年コースの厳しい訓練を受けていた。半年ごとに仕事の担当が変わっていて、銀行係りを務めた期間があった。修練者の主な仕事は勿論、霊的修練だが、少し修練所の運営を手伝うようなものだった。春先だったかな。銀行に使わされて、何かの用事を済ませて修練所に帰って来た。日毎の修練が続き、平凡な日々が過ぎて行ったが、かなりの時間、恐らく、2 か月は優に経った時、修練所の通帳の印鑑が何処にも見当たらないことが分かった。銀行係りが私だったので、印鑑を失くしたのも私のはず。どう思い出そうとしても、何処に始末したのかさっぱり分からなかった。いや、始末どころか、何処にほったらかしてしまったのか全然思い出せなかったのだ。ぼっかり記憶が抜けていたのだ。結局、新しい印鑑を作り、通帳も更新することになった。私の過ちによる事態に、修練長の神父様は厳しく問い詰めてきた。何故、あのような怠惰な仕事ぶりしかできないのか、と。しかし、当時は何も分からなかった。どうして、自分が適当に仕事をしていたかを。

人間のエネルギーには限りがある。総量として決まっているし、その発揮を邪魔するものもあり得る。好き嫌いが激しい自分、やりたくないことに精を出せるわけではない。 そうだった。修練所に入ったものの、やる気がなかったのだ。 その理由は、まだ御父である神様に対していっぱいの不満を持っていたためだった。自分の人生に、何故、こんなに苦しみが多いのかと。それが腑に落ちなくてイライラしていた。投げ槍的な気持ちだった。自分を、岩に投げつけられてぺちゃんこに潰れてしまう卵のようにしたいと思っていた。もう、別に生きてくなかったのだ。

心の大事な所が壊れていたと思う。魂も混沌そのものだった。内面からの叫び声が怒涛のように自分を流していた。苦しかった。毎日毎日、修練長による心理的・精神的挑戦と挑発は続くが、逃げ道は八方塞がりだった。ある日、修練所近くの小さい丘で、空を飛んでいく大きい鳥に叫んだ。「いいね。あなたは自由で！」その後、トボトボと修練所に戻り、しんどい日常を耐え忍んだ。怒りに満ちて、お御堂で十字架の前に座り込んで呟いていたある夜、イエス様の十字架の苦しみと出会った。十字架の苦しみが私を通り抜けていった。その出来事以来、私は変わった。

事務局で色々な仕事をこなしている。連絡、決定、立案など、仕事の内容も様々だ。最近では昼食も抜きながら仕事に打ち込むことも稀ではない。何故だろう。こんなに一所懸命仕事をしている理由は？いや、言葉を変えよう。どうして、ここまで頑張れるのだろうか？

神様と和解が出来たためなのだ。つまり、自分の人生の中身が納得できたし、これからの人生も惜しみなく与えつくす覚悟が決まっているのだ。何も残したいことは一切ない。ただ、自分の人生を通してやっていたことが、人々の為役に立つのであれば、神様をより深く出会わせる働きだったことに大満足するだけだ。

あの日、私は十字架上のイエス様に出会った。負けが一番大きい勝利なんだと教わった。

苦しみは恵みだと。 苦しみは救いなのだ、と。

